

◆ 編集後記 ◆

今年度も紀要「福祉社会開発研究」(第13号)をお届けいたします。

東洋大学福祉社会開発研究センターは、2013年度から行ってきた第2期目の5年間の研究活動を終え、2018年度より「社会的に孤立している人々に対応する持続可能な『つなぐ』支援システムに関する研究」をテーマとして第3期目の研究活動を行って参りました。2019年10月から第4期目を迎え、これまでの研究実績を踏まえながら、「つながりがある社会を支える価値と支援システムに関する研究」をテーマに社会的に孤立する人々へのICTを活用した持続可能な包括支援システムの構築に関する研究を文理融合体制で開始しました。新ユニット間で研究方法・研究内容等の評価と課題を検証し合い、新たな研究課題を取り上げプロジェクトに取り組み始めています。

本年度はコロナ禍の影響で、大きく生活のあり方が変化した1年でした。また、そうした中で、ICTの利活用ということが広く日本中に広まった1年でもありました。本センターが掲げた「ICTを活用した持続可能な包括支援システムの構築」とはまさにそうした時代の流れを先取りするものであったともいえるかもしれません。そんな中、研究者個々人が時間との闘いの中で、日ごろの研究成果をもとに論文作成に取り組み、例年どおり、こうして研究紀要をお届けすることができました。

皆さまには是非ご一読いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本研究センターの研究活動にご協力いただいた多くの方々に、心より感謝申し上げますと共に、今後とも、一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、本誌はISSN(2189-910X)に登録しておりますことを申し添えます。

2021年3月

SPA1ユニット長	金子 光一
SPA2ユニット長	伊奈川 秀和
SPA3ユニット長	加山 弾
SWユニット長	志村 健一
SWユニット長(朝霞)	古川 和稔
SEユニット長	窪田 佳寛